

自分を表現する方法には、いろいろなものがあります。愛媛県の高校総合文化祭では、毎年、高校生が、音楽や美術、書道、写真、俳句や弁論などを通して、自分たちの思いを表現しています。囲碁や将棋、華道なども自分を表現する方法の一つです。文化部ではありませんが、創作ダンス部も、体の動きや表情、衣装や音楽を通して、伝えたいメッセージを表現しています。

今年度、東高生は、どの部活動も、すばらしい作品や感動的なパフォーマンスで、しっかりと自分たちを表現することができたのではないかと思います。

演劇も、自分を表現する方法の一つで、本校演劇部は、毎年、県優勝を果たしています。

その演劇部の今年の演目は「うさみくんのお姉ちゃん」。コミカルなかけ合いの中に感動的なシーンがあり、県の高文祭では、観客の中から、すすり泣きが聞こえてきました。私自身も、クライマックスでは、涙がこみあげてきました。

「うさみくんのお姉ちゃん」は高校生。ぶっきらぼうで怒りっぽい一面がありますが、何かと気にかけてくれる友人も多く、愛すべきキャラクターです。「お姉ちゃん」は、同じ高校に通う弟から懇願されて、弟の友人「溝呂木くん」の対人恐怖症を直そうと、放課後の教室で、溝呂木くんと話をしますが、なかなかうまくいきません。やがて「アンパンマンが好き」という共通点をきっかけに話が進むようになり、二人で「アンパンマンのマーチ」を歌い、最後は溝呂木くんが大きな声で自分の思いを訴えます。そのシーンでは、私も胸が熱くなりました。

劇中、「アンパンマンのマーチ」の歌詞「愛と勇気だけが友達さ」について触れた場面があります。アンパンマンには友達が多い。なのに、なぜ、友達は「愛と勇気だけ」なのか。うさみくんのお姉ちゃんも溝呂木くんに話していましたが、アンパンマンの作者やなせたかしさんによると、「戦う時は友達をまきこんじゃいけない、戦う時は自分一人だと思わなくちゃいけないんだ（『私が正義について語るなら』）」という思いが込められており、深く考えさせられる歌詞なのだと気付かされます。

皆さんも、これまでいろいろと戦ってきた経験があると思います。部活動では他校との戦いや、自分の限界を超えるための戦いもあったでしょう。親や先生に立ち向かったことや、自分の睡魔と戦ったことがあるかもしれません。対戦相手がいたとしても、多くの場合、最後は自分との戦いで、その戦いに勝つには、弱い自分を鼓舞し、勇気をふりしぼって、自分が頑張るしかありません。親も友達も先生も、あなたの後押しをしますが、最後は自分がどう頑張るかなのだと思います。なかなか厳しい戦いです。

しかしながら、知っておいてほしいことは、アンパンマンと同じように、「あなたは一人ではない、多くの支えがあってここまで来た」ということです。そして、「あなたも誰かの支えになっている」ということを覚えていてほしいと思います。

「アンパンマンのマーチ」には、「時ははやくすぎる 光る星は消える だから君はいくんだ ほほえんで」という歌詞があります。国語で学習する『山月記』でも、詩家を目指していた李徴が、「人生は何事をもなさぬには余りに長いが、何事かをなすには余りに短い」と伝えます。確かに、時間は早く過ぎていきます。が、李徴は続けて、「(そういう) 口先ばかりの警句を弄しながら、事実、才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧と、刻苦を厭う怠惰とが己のすべてだったのだ。己よりも遥かに乏しい才能でありながら、それを専一に磨いたがために、堂々たる詩家となった者が幾らでもいるのだ。」と述べます。

東高生には、自分を実現するための「よい戦い」をしてほしい。そして、そこには、あなたを支えている人もいれば、あなたが支えている人もいる、ということを忘れないでいてください。

これからの皆さんの健闘を祈ります。(1591字)